

# // 第1章 はじめに

---

## 1. 計画策定の趣旨

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分に発生した東日本大震災は、我が国において観測された最大規模の地震であり、激震とその後が続いた大津波により、本町に甚大な被害を及ぼしました。多くの町民の尊い生命を失うとともに、住宅や店舗、加工工場等のみならず、公共施設も被災することで、町民の日常生活や産業にさまざまな影響を与えました。さらに、地震で発生した地殻変動による地盤沈下により、震災以降も港周辺部の被害の拡大や復旧作業を極めて困難にさせる事態となっています。

本計画は、今回の震災が与えた影響や課題を把握し、被災した町民の生活再建を支援しつつ、町の将来像も見据えて検討を進め策定したものです。

本計画に基づき、一日も早く町を復興し町民が安心して暮らせる町をつくること、さらに本町の基幹産業である水産業を活性化させ、現状復旧にとどまらない新しい「港町おながわ」の再生、ふるさと女川の発展をめざします。

## 2. 計画の位置づけ

本町では、第 4 次女川町長期発展計画（以下、「発展計画」）に基づき、総合的な視点から町の発展をめざしてきました。本年度は発展計画の目標年次であり、平成 22 年度から、発展計画がめざした目標・計画の実施状況の検証を踏まえた上で、新たな目標・計画の検討により第 5 次発展計画の策定を行っていました。

しかし、東日本大震災の発生により町がこれまで整備してきた社会資本等の多くを失った状況下において、これまで検討を進めていた発展計画を推進することは非常に困難な事態となりました。

被災後の本町の最大の課題は、甚大な被害を受けた震災からの復興です。本来、復興計画は、東日本大震災からの復興のための個別計画ではありますが、女川町復興計画を策定し、あらゆる施策に優先して実施することとします。

今後、女川町復興計画がめざす将来の展望や発展計画の理念と目標を踏まえ、復興の過程において必要に応じて、第 5 次発展計画を策定し、長期的な町の発展に向けて全力で取り組んでまいります。

### 3. 計画策定の経緯

町では、まちの復旧・復興を町民一丸となって推し進めていくために、平成23年5月1日、町内各団体の代表や有識者等による女川町復興計画策定委員会（会長 鈴木浩 福島大学名誉教授）を立ち上げました。

女川町復興計画策定委員会は、町復興推進本部（本部長 安住宣孝女川町長）と連携し、復興方針や復興計画の策定の中心となって機能してきました。

本計画が策定に至る検討の過程は、以下のとおりです。

#### 女川町復興計画策定の経緯

町民の皆さんとの協働により計画を策定するため、公聴会等を開催し皆さんのご意見を伺うとともに、「復興ニュース」や町ホームページにて検討状況を周知しました。

時期	委員会等の動き	意向把握・周知状況
平成23年 5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第1回委員会開催（5月1日） －復興の基本的考え方、方針</li> <li>◆第2回委員会開催（5月9日） －復興方針（中間答申）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○復興ニュース第1号（5月2日）</li> <li>○復興ニュース第2号（5月11日）</li> <li>◆公聴会開催（5月22日27日28日） －各地域の町民の皆さんや団体と 意見交換を実施</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第3回委員会開催（6月10日） －復興方針確定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○復興ニュース第3号（6月11日）</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第4回委員会開催（7月9日） －復興計画原案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公聴会開催（7月20日～22日）</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第5回委員会開催（8月10日） －復興計画（案）とりまとめ （最終答申）</li> </ul>	

はじめに